

広報担当が取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。 **カシャ!!**
 情報交流課 ☎0040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



感染症対策のため、会場とオンラインを組み合わせ開催

女性の新しい働き方を応援

■わたしたちの「月3万円ビジネス」講演会

ミルキーウェイクエア（波津区）で1月25日、矢口真紀さん（choinaca合同会社代表）と松村美乃里さん（つなぐば家守舎株式会社）を講師に招いて「わたしたちの『月3万円ビジネス』講演会」が開催され、23人が受講しました。

参加者は「家事や育児の合間に、自分の好きなこと、やりたいこと、得意なことを活かして、地域で自分らしく生きていくための選択肢」である「月3万円ビジネス（3ピズ）」について真剣に学びました。

わからないところをじっくり理解

■地域住民による放課後学習支援

榛原中学校では、生徒が授業や自宅学習でわからなかったところをボランティア（支援員）が教える「放課後学習支援」の取り組みを行っています。

同校では以前、希望生徒数に対して支援員数が少なく対応に苦慮していましたが、本年度から正式に「コミュニティスクール」となり、改めて地域に呼びかけを実施。その結果、元教員や教育実習生など8人の支援員を確保することができ、取り組みが充実するとともに、地域と学校・生徒のつながりを深める場としても機能しています。



生徒に分かりやすいよう工夫した授業を行う支援員



カラー放水を披露する消防団員

無火災・無災害とコロナ終息を願って

■令和4年牧之原市消防団出初式

1月9日、相良中学校を会場に、牧之原市消防団出初め式が2年ぶりに開催されました。

体育館で執り行われた式典には、観閲者である杉本市長のほか、衆議院議員、県議会議員、市議会議員、市内各区長など多くの来賓が出席し、式の前半は長年消防団に尽力した団員の表彰が行われました。

後半はグラウンドに移動し、1年の無火災・無災害、そして新型コロナウイルス感染症の終息を願い、カラー放水が披露されました。

今年一年のさらなる発展へ決意

■令和4年牧之原市新春初顔合わせ会

相良総合センターい〜らで1月4日、牧之原市新春初顔合わせ会が開催され、市内企業や団体の代表者、行政・教育関係者など約250人が出席しました。冒頭には、永年にわたり活躍し、市の発展に貢献した皆さんへの表彰式を行いました。

杉本市長は「魅力と活気にあふれた牧之原市が、春の芽吹きとして新たに始まるよう、全力投球でまちづくりにまい進する」と決意を述べました。

その後、出席者は会場内で新年のあいさつを交わし、交流を深めました。



年頭のあいさつをする杉本市長（中央）

子どもの健やかな成長を願って

■大鐘家つるし飾り展

片浜区の国指定重要文化財「大鐘家」で、つるし飾り展が5月中旬まで開かれています。

つるし飾りは、子どもの健やかな成長を願い、桃の節句のひな壇の両側に、はぎれで作ったぬいぐるみをつるす風習で、別名「桃飾り」とも呼ばれています。

期間中は、近隣市町の手芸愛好家が作った「ひなのつるし飾り」や、ひな人形の段飾り、着物など約100点が展示されており、江戸時代の古民家に鮮やかに飾られた風情を楽しむことができます。



色とりどりのつるし飾りを楽しむ来場者



スタッフからプールの説明を受ける児童ら

プールでのライディングを間近で体感

■「静波サーフスタジアム」見学

川崎小学校の3年生が1月21日、郷土の特色ある施設・文化にふれあう学習やコミュニティスクールの取り組みの一環で、「静波サーフスタジアム」を見学しました。

児童らは、スタッフからプールの大きさや波を出す仕組みなどの説明を受けた後、サーファーのライディングを間近で見学。児童は「この波は普通のプールにはないので、ここだけのシステムにびっくり」「ここでサーフィン体験をしてみたい」など、さまざまな感想を話していました。

最高賞に輝いた紅茶を振る舞う

■「釜炒り茶柴本」が市長に受賞を報告

「釜炒り茶柴本」（柴本俊史代表・川崎区）が昨年10月、「国産紅茶グランプリ2021」のプロダクツ部門（商品化されている茶葉）で最高賞を受賞し、1月12日、杉本市長に結果を報告しました。

最高賞を受賞した「蜜香茶べにふうき」は、無農薬栽培した茶葉を1年間熟成した後、焙煎仕上げがなされた商品です。

柴本代表から受賞した紅茶を振る舞われた杉本市長は「今後とも挑戦を続けてほしい」と激励しました。



杉本市長に「蜜紅茶べにふうき」を振る舞う柴本代表（左）



市からの感謝状を持つ濱崎取締役（左）と目録を持つ杉本市長

レガシー継承、沿岸部活性化のために

■東武トップツアーズ株式会社から多額の寄付

本市と地域活性化に関する包括連携協定を結ぶ東武トップツアーズ株式会社（本社：東京都墨田区）から牧之原市に対し、「企業版ふるさと納税」を活用して1千万円が寄付されました。

これは、2020東京五輪のホストタウン推進事業やウエーブプールを核とした広域観光交流促進事業を対象として寄付されたものです。同社の濱崎真一取締役は「全国のホストタウンに登録された自治体の中で、レガシーを残す可能性の高い自治体に寄付させていただいた」と話しました。